

モンゴルにおける血液透析および水質管理の技術研修

①現地の状況やニーズなどの背景情報

2020年度から医療技術等国際展開推進事業に採択され、透析液の水質に関するガイドライン策定支援とそれに必要なモンゴル全土の透析液の水質検査を行った。策定されたガイドラインは2022年に保健省より各施設に公布された。

②事業目的

策定したガイドラインの基準を満たせるように水質を管理するために、定期的な水質検査の実施、透析装置のメンテナンス、血液透析に関わる知識や基礎技術の向上を目指すことを目的とする。

③事業の概要(日本の医療や事業者の強みに言及しつつ、日本のどの機関が、他国のどの機関と、どのような内容の研修、専門家派遣を行うのか)

本事業では、血液浄化に関する専門家を有する学術団体である日本血液浄化技術学会がモンゴル透析学会および国立第一病院・国立第二病院・国立第三病院と協力し、ウランバートルの透析医療従事者に対し透析医療における特に技術面での研修を行う。また、各施設において、水質管理のための技術研修を行い、各施設で水質管理ができるようにするために必要な支援を行い、ガイドラインの実効性の確認する。

④期待される成果とその後の波及効果(誰が、誰と何をし、どのような手法で、何を、いつまでに達成するのか)

ガイドラインにはモンゴルの医療機関において、エンドキシンおよび生菌の定期的な測定の必要性が記載された。また、医者・医療機関の職員に知識・情報を提供し、能力向上させるための研修を開催することも義務づけられた。エンドキシン濃度の測定には、専用の装置および測定試薬が必要となることから、各病院からまず検査を外注できる体制を整える。また、ニプロ社など国内企業との連携により、生菌数を測定するためシート、エンドキシン測定試薬などの消耗品の供給を現地医療機器販売業者から行えるようにする。

